

フリースクール大橋みなと学園の理念

答えはひとつじゃない！

大橋敬之 著

はじめに

みなさん、こんにちは！ フリースクール大橋みなと学園学園長の大橋敬之（おおはしたかゆき）です。この冊子『答えはひとつじゃない！』を手にとっていただき、ありがとうございます。この冊子は、当学園の理念や考え、をまとめたものです。

当学園は設立から2年が経過し、3年目を迎えることができました。意識することが少なくなってしまう「設立時の熱意」や「学園の理念」を、今一度、再確認して、文書にまとめることが必要だと思い、この冊子をまとめることにしました。

それから、フリースクールを運営している中で、新しい気づきもありましたので、それらも反映させるようにしました。

この冊子を読んでいただいて、少しでも多くの方に、当学園の考えを理解していただければ、幸いです。

平成二十九年七月吉日

学園長 大橋敬之

設立趣意書全文

設立趣意書の全文は次のとおりです。

フリースクール大橋みなと学園 設立趣意書

私はフリースクール大橋みなと学園を設立いたしました。その理由は次のとおりです。

- (1) 日本の教育制度の画一性を和らげ、多様な教育機会のある社会を実現する。
- (2) 多様な個性を持っている子どもたちの健全で伸びやかな育ちを応援する。
- (3) 保護者の方と教育現場の方へ応援・協力し、教育制度の発展に寄与する。
- (4) 成功法則に基づいた新しい教育を探求する。

これらの目的を達成できるように、フリースクールを運営いたします。

平成二十九年七月十一日 大橋敬之

この設立趣意書は、この冊子を制作する過程で、作ることが出来ました。（いわば、この冊子の要約というカタチで作られました）。この設立趣意書を、フリースクール運営の基本方針とします。

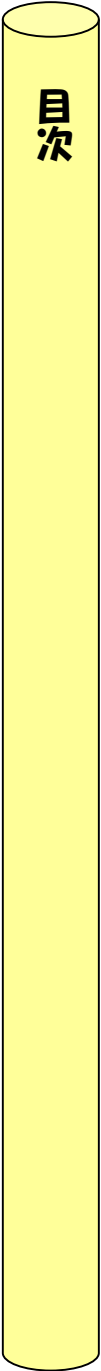
この冊子の構成

第1章 私は、中学生の時に不登校でした。その時に、他に選択肢（例えば、フリースクールのようなもの）があればいいなど、思っていました。いつかフリースクールを設立して運営したい、と思うようになりました。そして、大人になった私は、ついに、フリースクールを設立しました。第1章では、その経緯を述べます。

第2章 私は不登校を経験していますので、不登校について考えることが多く、多くの時間を使って考えました。そして、問題なのは、現代日本の教育制度の「画一性」である、という結論に至りました。ただ単に、制度の問題である、と思うのです。フリースクールの設立は、この教育制度の「画一性」を和らげ、多様性を増やすための試みでもあります。これらについて、この章で詳しく述べます。

第3章 教育制度の画一性を和らげ、多様性を増やす試みという目的もありますが、もちろん、実際に、個別的に、不登校生と保護者の方を応援する（フリースクールの役割をきちんと果たす）、ということが第一に重要です。この章では、私たちのフリースクールが、どのようなカタチで、不登校生と保護者の方を応援するのか、ということを描べます。

第4章 私たちのフリースクールの目指す教育のカタチ、成功法則に基づいた新しい教育について、この章で述べます。



目次

はじめに	2
設立趣意書全文	4
この冊子の構成	6
目次	8
第1章 私の経験とフリースクール設立の経緯	12
・私が中学生の頃の話	

- ・教育制度について考えました
- ・フリースクール設立

第2章

現代日本の教育制度を多様なものに変えたい！ 16

- ・不登校の問題は、制度の問題
- ・日本の教育はかなり画一的
- ・不都合① 不登校という問題が生まれてしまう
- ・不都合② みんなと同じでなければならぬ、という雰囲気
- ・不都合③ 多様な人材が生まれづらい

第3章

不登校生と保護者の方への応援 22

- ・考え方① 不登校でも大丈夫
- ・考え方② 家に居る時間も大切

第4章

- ・ 応援① まちなかの立地で代替教育
 - ・ 応援② カウンセリング
 - ・ 応援③ 学習の指導
 - ・ 応援④ 学校との連携
 - ・ 応援⑤ 調理実習で生活力をつける
 - ・ 応援⑥ 社会参画の支援
-
- 成功法則に基づいた新しい教育 28
 - ・ 成功法則について
 - ・ 成功法則① 読書週間
 - ・ 成功法則② 片付ける習慣
 - ・ 成功法則③ 自主性と協調性のバランス（自立と共生）
 - ・ 成功法則④ 自分で考え、行動する

- ・ 成功法則⑤ 体をきたえると、心もきたえられる
- ・ 成功するところ
- ・ 成功法則⑥ 世のため人のため
- ・ 成功法則⑦ 好きこそものの上手なれ
- ・ この章の結び

あとがき

.....38

第1章 私の経験とフリースクール設立の経緯

私が中学生の頃の話

私は、中学1年生の夏休み明け、2学期あたりから、卒業まで、おおよそ中学生生活のほとんどを家で過ごしました。その頃の話をしします。

不登校生になつたいきさつは次のような感じでした。

朝、起きられない日があり、学校を欠席しました。次第に、朝、起きられない日が増えてきて、遅刻や欠席が増えてきました。欠席が増えてくると、朝、調子の良い日も登校しづらくなつてしまい、ついには、ほとんど毎日を家で過ごすようになりました。

東京にある病院に、連れて行ってもらいましたが、「起立性低血圧」ということでした。立ち上がったときの血圧上昇がゆるやかなため、立ちくらみがおきやすかったり、朝、起きられなかったりという症状がでます。主に思春期のころになりやすく、成人のころには良くなるケースが多い、と記憶しています。

私は、家でテレビを見たり、考え事をしたり、テレビゲームをしたり、漫画を読んだりして、過ごしていました。明け方に寝て、午後に起きるという昼夜逆転の生活を送っていました。

親は、とても心配していたようでした。学力だけでも、ということ、家庭教師の先生を呼んでくれました。おかげで、私は千葉県にある私立の一般の高校に進学することができました。寮に入り、規則正しい生活を送り、無事に、「一般的なルート」に戻ることができました。

教育制度について考えました

私は、不登校生のころ、ありあまる時間を使って、社会のことや教育制度のことなど、いろいろなことを考えていました。どうやら、日本の教育制度は画一的で、多様性がないなあ、そんなことを思っていました。

そして、子どもの多様性に対応できるように、子どもの個性に合わせて、いくつかの教育機会を選べるような制度であればいいな、と思いました。例えば、午後から始まる学校や、フリースクールや、家庭学習も公的に認められるような、そんな、多様な教育機会が認められている制度です。

そうすれば、学校に行っていないなくても別の教育機会が認められているので、そもそも不登校という概念がなくなり、不登校生に対する偏見もなくなり、不登校生の社会参画もよりスムーズになり、多様な人材が育ちやすい、と思います。

フリースクール設立

大学を卒業し、大学院を修了した私は、家業のガス会社に入社しました。仕事を覚えてきて、自分の仕事に少し余裕が持てるようになってきた私は、いよいよフリースクールを設立しようと思いました。ホームページをつくり、パンフレットを作り、教室の準備をして、カウンセラー資格も取得しました。そして、ついにフリースクールを設立しました。

不登校生も、保護者の方も、教育現場の方も、不登校について悩まなくてもよいような社会を目指して・・・。

第2章 現代日本の教育制度を多様なものに変えたい!

不登校の問題は、制度の問題

不登校、という問題は、何がいけないのでしょうか。私は、こう思います。不登校生本人が悪いわけではなくて、保護者の方も悪いわけではないと思います。そして、教員も学校も教育委員会も悪いわけではないと思います・・・では、何がいけないのでしょうか・・・。問題なのは、「現代日本の教育制度が画一的であること」、「なのだ」と思います。つまりは、ただ単に、制度の問題である、と思うのです。

日本の教育はかなり画一的

日本の近現代の教育制度は、明治維新の頃から始まりました。明治維新の当時、各地で多様性のあった教育を、全国で統一しようとしたのです。日本の近現代の教育の出発点は、そもそも、統一性、画一性を、目的としたものでした。

その教育の画一性は、戦時中、国民学校という名で強化され、戦後は平等という理念の下でさらに強化されたと思います。それに続く現代も、かなり画一的である、と思います。

私が言う「画一的」という意味は、文部科学省によって定められたただひとつのカリキュラムしかない、ということです。Aというカリキュラムのみしかなく、別のカリキュラム（例えばBというカリキュラムや、Cというカリキュラム）が、特別なケースを除いてほばない、という意味です。

この画一性、がいろいろな不都合を生じさせている、と思っています。これから、具体的に3つの不都合を述べます。あわせて、それらの不都合がフリースクールの出現によって、（または、教育機会の多様化によって）いくらか解決できる、ということ

とも述べます。

不都合① 不登校という問題が生まれてしまう

不都合の1つめは、教育の画一性が、不登校という現象を生み出してしまふ、という事です。

文部科学省によって定められた一つの学校カリキュラムしか認められていないので、そこで、うまくいかなかった場合、不登校、ということにつながりやすくなります。フリースクールや、フレックスタイム制、ホームエディケーションなどの選択肢があれば、そこで、うまくやっていけるかもしれません。それらの代替教育（オルタナティブ教育）が、きちんと公的に認められていけば、不登校という概念がそもそも成立しなくなりますので、不登校という問題はなくなると思います。不登校というコトバもなくなるかもしれません。（実際に欧米ではそうなっているようです）。

すると、そもそも不登校というものがないので、不登校ということで、悩んだり、偏見を持たれたりということがなくなると思います。

不都合② みんなと同じでなければならぬ、という雰囲気

私がフリースクールを設立してから2年が経過しました。フリースクールを運営していることを、知人に話すと、「いいことをしてるね」と言われます。

それと同時に、不登校生に対する偏見のようなものが意外に強いなと感じています。不登校生の保護者の方も、深刻に捉えているケースが多いです。これでは、不登校生本人も、自信を失ってしまいかねません。

これは、教育が画一的であった時期が長期間あったということの、副産物であるよな気がしてなりません。Aという基準から外れると、もうだめという価値観・雰囲気を感じます。

私は、「不登校生、個性があつてよい！」というような価値観・雰囲気になればよいなと思つています。（私は、実際、そういうふうに思つています）。

不都合③ 多様な人材が生まれづらい

画一性もたらす不都合の3つ目は、多様な人材が育ちづらい、ということです。このことは、最近までは特に不都合はなかったのだと思いますが、時代が変わり、不都合が生じてきたのではないかと思つています。時代の変化とは、詳しく言うと、多品種少量生産時代、インターネット・IT時代、グローバル化時代、AI時代というものです。

価値観が多様化し、それにあわせて多様な人材が求められるようになってきました。つまり、Aという基準で選ばれた人材だけでなく、Bという基準や、Cという基準で選ばれた人材（多様な人材）が、社会の発展のために必要なのだと思ひます。

フリースクールなどの代替教育、多様な教育機会が、きちんと認められれば、現行のカリキュラム以外の基準で選ばれた人材が出やすくなるはずです。

現行制度の下で「不登校」となっている人は、現行制度になじまない個性のある子どもです。この新しい時代に必要とされる多様な人材になりうると、信じています。

第3章 不登校生と保護者の方への応援

画一的な教育を、多様なものにしたらい、という思いでフリースクールを設立しようと思いました。そして、肝心なフリースクールの内容について、3章・4章で述べます。

この第3章では、私たちのフリースクールで、不登校生と保護者の方へどのような応援をしているのかについて述べます。

考え方① 不登校でも大丈夫

まず、一番大事なのは、不登校でも大丈夫だと、肯定的に思うことだと思います。なぜ、大事かというと、現状を認めることが、保護者の方の心の平和につながり、不

登校生本人の自信にもつながるからです。その自信は、その後、とても大きく役に立ちます。

大人でも、会社の人間関係がうまくいかなくて転職した、という話はよくあることです。それが、学校で起こっただけ、ただ、それだけのことだと思っただけです。大人であれば、自由に転職できますが、小学生、中学生にとつて選択肢は、ほとんどありません。(高校生になると選択肢はかなり増えますが)。選択肢が、ほとんどないがために、家にいるしかないのだと思います。

私は、中学生時代、不登校でしたが、現在、それが理由で不利益になっているということはありません。ひとつもないです。不登校生のころは、考える時間がとても多くありましたので、自己形成にとっても役に立った期間だと思っています。

せっかくの贅沢な時間ですので、否定的にならずに、肯定的な気持ちで過ごすのが良いと思います。

考え方② 家に居る時間も大切

ずっと家に居るのも良いですが、退屈してしまう場合もありますので、たまには外に出て、他の人と接するのも良いと思います。(当学園では週1回と週2回とのどちらかを選べます)。たまに外出することで、息抜きになり、家に居る時間を、より肯定的に過ごせるようになれば良いなと思います。

当学園では、息抜きになれるように、また、自己肯定感を増やせるように、レクリエーションなどの時間もとりいれています。

応援① まちなかの立地で代替教育

リースクールというと、農業や酪農中心だったり、山奥にあつたり、大自然との関わりを重視したものが多くのような気がします。人間関係で疲れているので、社会から離れて自然の中で本来の力を回復する、ということなのかもしれません。

大自然もよいですが、私は、普通にまちなかでの代替教育を目指しています。（この代替教育の内容は、次章「成功法則に基づいた新しい教育」で述べます）。

応援② カウンセリング

不登校でも大丈夫と、保護者の方が思えるように、また、不登校生本人も自信を付けてもらえるように、カウンセリングもいたします。（当学園に通っていなくても、カウンセリングのみでも受け付けています）。

応援③ 学習の指導

学力も大切です。国語算数の基礎学力は、日常生活をするのにも大切だと思います。それから、学校に復帰する場合も、学力があるとよりスムーズになります。

なるべく楽しく学べるように、小さなステップで、少しずつ進めるように工夫しています。

また、基礎学力意外にも、理科の実験や、社会科見学、楽しめて、コミュニケーション能力を高められるように意識しています。

応援④ 学校との連携

所属の学校への復帰を希望する場合も、しない場合も、どちらにしても、所属の学校との連絡・連携は大切だと考えています。当学園への出席が、所属の学校の出席扱いになる場合もあります。

所属の学校への連絡・連携もスタッフがいたします。

応援⑤ 調理実習で生活力をつける

昼食は、生徒さんで協力して料理します。献立を考えて、食材を購入して、調理して、食べて、片付けます。生活力とコミュニケーション能力の向上を意図しています。

応援⑥ 社会参画の支援

当学園では、高等部があり、通信制高校と併修することで高卒資格を得ます。（進学を目指す場合は、高卒認定試験でも大丈夫です）。

進学希望の場合は受験勉強の指導をします。就職希望の場合は、就職活動の支援をします。

第4章 成功法則に基づいた新しい教育

まちなかの立地での代替教育を目指すと、前章で述べましたが、その内容、教育方針について、この章で述べます。私たちのフリースクールの目指す教育のカタチです。

成功法則について

私は成功本（成功した人の著書や、成功者の共通性を研究した本のこと）を、何十冊と読みました。成功法則というものを研究しています。その成功法則を中心にするという方針で、カリキュラムを組みました。

成功というと、大富豪になったり、有名になったり、ということが連想されますが、そういうことに限らず、善く生き、充実して幸せ感のある生活を送ることを、成功と

呼びます。多くの方に、成功してもらいたいと思っています。

成功法則① 読書習慣

まず、第1に「読書」というのが大切だと思います。本は、先人たちの知恵を与えてくれます。読書に親しむことは、とても良い習慣だと思います。

成功法則② 片付ける習慣

次に、片付ける習慣が大切です。私も、片付けるのが苦手ですが、だんだん片付けられるようになってきました。片付けるのが苦手な原因は、いくつかあるとおもいますが、完璧主義だと片づけが苦手になる、というケースもあります。片付ける習慣ができる、成功に近づきます。

成功法則③ 自主性と協調性のバランス（自立と共生）

自主性と協調性のバランスを整える、ということも大切です。自主性は自分を大切にすること、協調性は他人に合わせるということです。自主性が強すぎると、我が強いということ、集団でうまくやっていくのが難しくなってしまうかもしれません。反対に、（私のケースですが）、協調性にかたよっていると、人と接する時に気を使いすぎて、自分が疲れてしまいます。両方のバランスが良い状態（中庸^{ちゆうよう}）を指します。

このことは、コミュニケーション能力を高める、ということにつながります。無理せず良い人間関係を築く、そういう能力を高めるのが目標です。

成功法則④ 自分で考え、行動する

時代が変わり、従来の「与えられた問題を効率よく処理する能力」から「問題を見つけて出して解決する能力」や「創造的な仕事をする能力」が求められるようになってきたと思います。現行の学校は、「与えられた問題を効率よく処理する能力」が重点的で、「問題を見つけて出して解決する能力」や「創造的な仕事をする能力」のほうを、あまり重要視していないような気がします。

当学園では、これらの能力を重要視しています。

成功法則⑤ 体をきたえると、心もきたえられる

不登校だと、心の問題、というように思われる方が多いかもしれませんが。体をきたえると、メンタル面に良い影響があります。（参考図書は、テストステロン Testosterone 著の『筋トレが最強のソリューションである』や、山本ケイイチ著の『仕事が出る人はなぜ筋

トレをするのか』など)。

それから、自律神経を整えると良いと思います。不登校生だと生活のリズムが崩れ、自律神経が不調になっている場合が多いからです。私は、自律神経を整える音楽CDをよく聴いています。自律神経を整える音楽をBGMとすることを勧めしています。

意外に効果的なのが、発声トレーニングです。アナウンサーやタレント・俳優の方がするというイメージがありますが、一般の私たちにとっても、とても有用です。きちんと発声するとそれだけで元気な気分がします。腹式呼吸で呼吸が深くなるとリラックスしますし、落ち着いた行動が取れるようになってきます。

成功するころ

成功法則の研究の結果、たどり着いた、2つの心得があります。それは、「世のため人のため」と「好きこそもの上手なれ」の2つです。この2つの成功法則は、車の両輪のような関係にあります。どちらかだけではうまくなくて、2つそろとうまくいく、ということなのです。それでは、次からこの2つの成功法則について、それぞれ詳しく述べます。

成功法則⑥ 世のため人のため

誰かの役に立ち、それを喜ぶこと、これが成功法則の第一原則（黄金律・ゴールデンルール）です。『論語』でいうところの「仁」に相当すると私は解釈しています。仕事というものは、基本的に、誰かの役に立つことで対価を得ています。誰かの役に立つことを多くした人は、多くの対価が得られます。ですから、成功者の多くは、誰かに喜ばれる、ということを常に意識しています。

誰かに喜ばれると、脳内ではエンドルフィンという物質がでます。このエンドルフィンで幸せを感じることができません。そしてこのエンドルフィンには依存性があります。(モルヒネの6・5倍の効果があります。成功者の多くはエンドルフィン依存症なのかもしれません)。

ただ、この「誰かの役に立ち、それを喜ぶ」ことは、意外に難しいのかもしれない。私自身も、このように思うようになったのは、つい最近のことです。このような心境になるためには、いくつかの下地が必要になってくると思います。

まず、自分のことを肯定するのが第一歩です。次に、現状に幸せを感じることが必要です。(自分が幸せであるから、他者の幸せを願える余裕があるのです)。そして、現状が幸せであることに感謝します。今、持っているもの、あるものに感謝します。そして、自分が持っているものは、自分で獲得したものではなく、他の誰かによってもたらされたものだという謙虚な気持ちも必要です。

つまり、①足るを知り、幸せを感じて、②謙虚になり、③感謝する。そうすると、

誰かの役に立ち、他者の幸せを喜べるようになるのではないかと、私は思います。
「誰かの役に立ち、それを喜ぶ」この心境は、経済的にも、精神的にも、良い影響がある、黄金律だと実感しています。

成功法則⑦ 好きこそものの上手なれ

好きなことに打ち込むと、上達が早い、という意味のことわざです。しかし、たくさん努力していると、その対象が好きになってくるという、反対方向の向きにもなり得ると思います。

何かに熱中する、夢中になる、それは重要な成功法則です。成功者の多くは、その対象に夢中になっています。自分を成長させるのが楽しいのです。

上達すると、脳内ではドーパミンという物質が出ます。このドーパミンも、エンドルフィンと同様に依存性があります。成功者の多くは、このドーパミンの依存性を良

い方に使っているのだと思います。

この章の結び

生徒さんに、これらの成功法則を身につけ、自信を持ってもらいたいと思っています。善き道を進んでほしいと思っています。

あとがき

この冊子をまとめるのに、時間がかかりました。何度も書き直しました。当初の想定よりも多いボリュームになりました。「ようやくできた」という達成感のようなのを感じました。

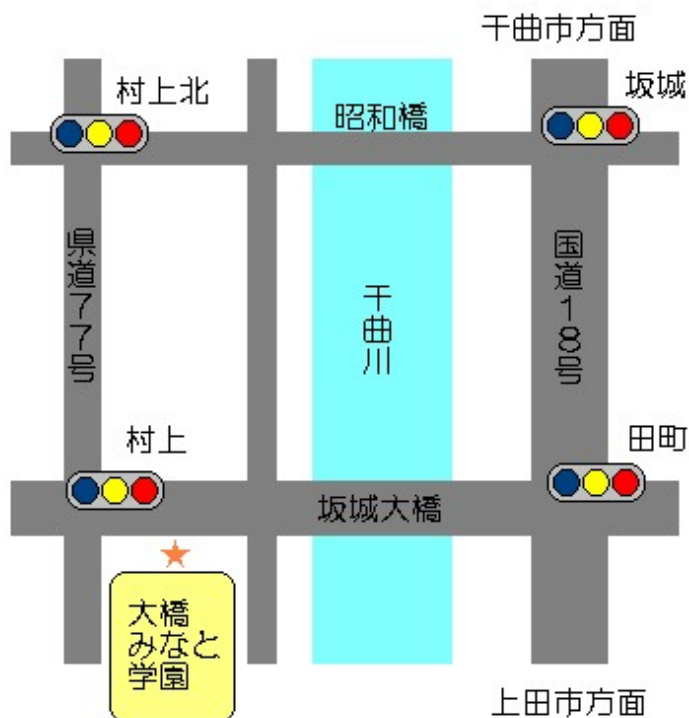
そして、「この冊子をまとめて良かった！」と、思いました。この冊子をまとめる過程で、自分の中でやや漠然としていた理念が、整理され、はっきりとしたからです。

この冊子で、設立の理念を、関係者の方や一般の方に伝えることができる！

大橋みなと学園 学園長 大橋敬之

学園名の由来

児童生徒学生さんが、復学や進学・就職を通じて、当学園を卒業した後に、学園での生活・経験が心の支え（こころのみなど）になれるようにと願いを込めて「大橋みなと学園」と命名しました。



もっと詳しく知るために

『大橋みなと学園ガイドブック』

(A5版、全12ページ)も、ございます！

(学費や時間割、送迎について、などが掲載されています) ご希望の方は、ご連絡ください！

著者

大橋敬之（おおはしたかゆき）

大橋みなと学園 学園長、有限会社大橋商店 常務取締役
心理カウンセラー

1982年（昭和57年）長野県生まれ。日本大学経済学部卒業、
大原大学院大学会計研究科修了（会計専門職修士）

フリースクール大橋みなと学園の理念

答えはひとつじゃない！

平成29年8月1日 初版第1刷発行

著者・・・・・・・・大橋敬之

発行所・・・・・・・・大橋みなと学園

〒389-0604 長野県埴科郡坂城町網掛 305-1

電話 0268-82-7743

編集協力・・・・・・・・志摩恵美・篠崎真理子

印刷・・・・・・・・大橋税理士事務所